

# パワーオプティマイザ

日本向け

S1000 / S1200



商業施設や大規模な発電所への設置に適した、経済性の高い、ソーラーエッジの最先端パワーオプティマイザ

- より大きなエネルギー収率**

  - モジュールレベルのMPPTと高効率 (99.5%) によりシステムのエネルギー生産量と収益の最大化、また、より高いプロジェクトROIを実現
  - 高出力や両面受光のモジュールに適合、高ストリング電流でのより長いストリング接続が可能
- 安全装置搭載による最大限の保護**

  - SafeDC™により、停電時やパワーコンディショナの停止時に直流高電圧から触れても安全なレベルに自動的に低下
  - Sense Connect搭載により、設置上の問題やコネクタの経時劣化による過熱を検知するための継続的なモニタリングが可能
- BoSコストの削減**

  - 柔軟なシステム設計によりスペースが最大限に活用でき、ストリング長を最大で2倍延長し、ケーブル、ヒューズ、および接続箱を50%削減
  - 2枚のモジュールの直列接続でケーブル管理の簡素化と設置時間の短縮が可能
- O&Mの簡素化**

  - モジュールレベルのシステムモニタリングにより、ピンポイントでの不具合検出や、リモートかつ短時間のトラブルシューティングが可能

# / パワーオプティマイザ

## S1000 / S1200

	S1000	S1200	単位
<b>入力</b>			
定格直流入力電力 <sup>(1)</sup>	1000	1200	W
絶対最大入力電圧(最低温度でのVoc)	125		Vdc
MPPT動作範囲	12.5~105		Vdc
最大短絡電流(Isc)	15		Adc
最大効率	99.5		%
実質効率	98.8		%
過電圧カテゴリー	II		
<b>稼働時出力</b>			
最大出力電流	18	20	Adc
最大出力電圧	80		Vdc
<b>非稼働時出力電圧 (パワーオプティマイザがパワーコンディショナから切断されているまたはパワーコンディショナのオフ時)</b>			
パワーオプティマイザごとの安全出力電圧	1±0.1		Vdc
<b>適合規格</b>			
EMC	FCC Part 15、IEC 61000-6-2、およびIEC 61000-6-3 - Class B、EN 55011		
安全性	IEC62109-1 (クラスIIの安全性)		
材料	UL94 V-0、UV耐久性		
RoHS	対応		
火災安全性	VDE-AR-E 2100-712:2013-05		
<b>設置仕様</b>			
最大許容システム電圧	1000		Vdc
寸法 (幅 x 長さ x 奥行き)	129 x 165 x 52	129 x 165 x 59	mm
重量 (ケーブルを含む)	1064	1106	g
入力コネクタ	MC4 <sup>(2)</sup>		
入力ワイヤー長	ショート: 0.1 ロング: 1.3 <sup>(3)</sup>	ショート: 0.1 ロング: 1.6 <sup>(3)</sup>	m
出力コネクタ	MC4		
出力ワイヤー長	(+) 4.7 (-) 0.10	(+) 5.3 (-) 0.10	m
動作温度範囲 <sup>(4)</sup>	-40~+85		°C
耐環境性能	NEMA6P / IP68		
相対湿度	0~100		%

(1) STCでのモジュールの定格出力がパワーオプティマイザの「定格直流入力電力」を超えないこと。最大+5%の出力公差を持つモジュールが許容されます。

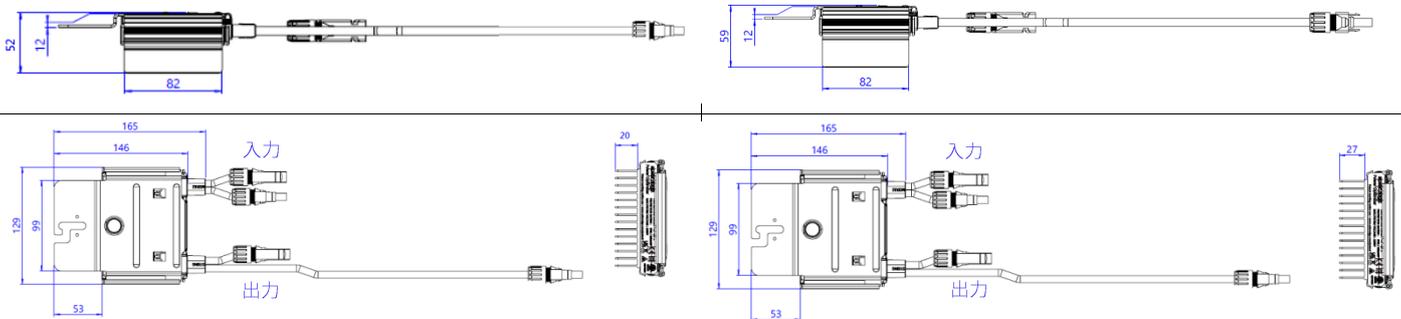
(2) 他のコネクタタイプにつきましては、ソーラーエッジにお問い合わせください。

(3) ロングワイヤーの入力ケーブル (1.3mまたは1.6m) を持つSシリーズモデルの場合、Sense Connect機能は出力ケーブルコネクタでのみ有効化されます。

(4) 周囲温度が+65°Cより高い場合、出力抑制がかかります。詳細は[パワーオプティマイザ 温度ディレーティングのテクニカルノート](#)を参照してください。

S1000 図面

S1200 図面



\* ソーラーエッジのパワーオプティマイザを設置するときは、適切なクリアランスを維持する必要があります。詳細は[パワーオプティマイザのクリアランスのアプリケーションノート](#)を参照してください。

# パワーオブティマイザ

## S1000

ソーラーエッジパワーコンディショナを使用したPVシステム設計 <sup>(1)(2)(3)(4)(5)(6)</sup>		SE5500H-JPJ/AC-S	SE17.5K-JPI	SE25K-JPI/JPI3	SE25K-JPI6	SE33.3K-JPI4/JPI8/ SE100K-JPI4*	単位
最小ストリング長	パワーオブティマイザ	7	10	14	14	15	
	PVモジュール	13	19	27	27	29	
最大ストリング長	パワーオブティマイザ	25	30	30	30	30	
	PVモジュール	50	60	60	60	60	
ストリング毎の最大連続電力		6,840	8,820	12,780	13,500	15,300	
ストリング毎の最大許容接続電力 <sup>(4)</sup>		13,750	1ストリング以下 – 10,020	1ストリング以下 – 15,030	1ストリング以下 – 15,750	1~2ストリング – 17,550	W
			2ストリング以上 – 11,420	2ストリング以上 – 17,780	2ストリング以上 – 18,500	3ストリング以上 – 20,300	
異なるストリング長と向きでの並列入力接続		対応					
同じパワーコンディショナユニットに接続された最短と最長のストリング間で許容されるパワーオブティマイザの数の最大差異		5台のパワーオブティマイザ					

\* シナジーテクノロジーパワーコンディショナーの一部である、同等の定格電力のシナジーユニットにも同一ルールが適用されます。

- (1) S1000は同一ストリング内でS1200と混在することはできません。Pシリーズとの互換性については、[ソーラーエッジパワーオブティマイザ間の互換性のテクニカルノート](#)を参照してください。
- (2) 以下の場合、各ストリングにおいて、1台のパワーオブティマイザに単一のPVモジュールを接続することができます。
- 1) 全てのパワーオブティマイザが単一のPVモジュールに接続されている (ストリング全体が1:1の構成になっている)。
  - 2) 1台のパワーオブティマイザだけが単一のPVモジュールに接続されている。
- (3) 三相パワーコンディショナの最低直流接続容量 (STCにおけるモジュール定格出力の合計) は11kWです。
- (4) ご使用条件によってはSTCにおけるモジュール出力で計算した容量以上の接続が可能になる場合があります。ソーラーエッジデザイナーでご確認ください。
- (5) 産業用パワーオブティマイザは10kWac未満の単相パワーコンディショナではご使用になれません。
- (6) 本オブティマイザはSE5500H AC-Sまたは2021年第42週以降に製造されたSE5500H-JPJと使用することが可能です。それ以外の単相パワーコンディショナとは使用することはできません。

## S1200

ソーラーエッジパワーコンディショナを使用したPVシステム設計 <sup>(7)(8)(9)(10)(11)(12)</sup>		SE5500H-JPJ/AC-S	SE17.5K-JPI	SE25K-JPI/JPI3*	SE25K-JPI6	SE33.3K-JPI4/JPI8/ SE100K-JPI4*	単位
最小ストリング長	パワーオブティマイザ	7	10	14	14	15	
	PVモジュール	13	19	27	27	29	
最大ストリング長	パワーオブティマイザ	25	30	30	30	30	
	PVモジュール	50	60	60	50	60	
ストリング毎の最大連続電力		7,600	9,800	14,200	15,000	17,000	
ストリング毎の最大許容接続電力 <sup>(10)</sup>		13,750	1ストリング以下 – 11,000	1ストリング以下 – 16,450	1ストリング以下 – 17,250	1ストリング以下 – 19,250	W
			2ストリング以上 – 13,000	2ストリング以上 – 19,200	2ストリング以上 – 20,000	2ストリング以上 – 23,000	
異なるストリング長と向きでの並列入力接続		対応					
同じパワーコンディショナユニットに接続された最短と最長のストリング間で許容されるパワーオブティマイザの数の最大差異		5台のパワーオブティマイザ					

\* シナジーテクノロジーパワーコンディショナーの一部である、同等の定格電力のシナジーユニットにも同一ルールが適用されます。

- (7) S1200は同一ストリング内で他のパワーオブティマイザと混在することはできません。
- (8) 以下の場合、各ストリングにおいて、1台のパワーオブティマイザに単一のPVモジュールを接続することができます。
- 1) 全てのパワーオブティマイザが単一のPVモジュールに接続されている (ストリング全体が1:1の構成になっている)。
  - 2) 1台のパワーオブティマイザだけが単一のPVモジュールに接続されている。
- (9) 三相パワーコンディショナの最低直流接続容量 (STCにおけるモジュール定格出力の合計) は11kWです。
- (10) ご使用条件によってはSTCにおけるモジュール出力で計算した容量以上の接続が可能になる場合があります。ソーラーエッジデザイナーでご確認ください。
- (11) 産業用パワーオブティマイザは10kWac未満の単相パワーコンディショナではご使用になれません。
- (12) 本オブティマイザはSE5500H AC-Sまたは2021年第42週以降に製造されたSE5500H-JPJと使用することが可能です。それ以外の単相パワーコンディショナとは使用することはできません。

ソーラーエッジはスマートエネルギーの世界的なリーダーです。ソーラーエッジは、世界最高水準のエンジニアリング能力と絶え間ないイノベーションの追求により、私たちの生活を支え、未来の発展を促すスマートなエネルギーソリューションを生み出しています。

ソーラーエッジはインテリジェントなパワーコンディショナソリューションを開発しました。これは、電力が太陽光発電 (PV) システムで収集され管理される方法を変えるものです。ソーラーエッジDCで最適化されたパワーコンディショナは発電を最大化しながら、その一方PVシステムが生み出すエネルギーのコストを下げます。

スマートエネルギーを進化させ続けることで、ソーラーエッジは、PV、ストレージ、EV充電、UPS、そしてグリッドサービスソリューションを通じて広範囲なエネルギー市場のセグメントに対処します。

 ソーラーエッジ

 @SolarEdgePV

 @SolarEdgePV

 SolarEdgePV

 ソーラーエッジ

 [www.solaredge.com/ja/corporate/contact](http://www.solaredge.com/ja/corporate/contact)

**[solaredge.com](http://solaredge.com)**

© SolarEdge Technologies, Ltd. 転載を禁ず。

SOLAREEDGE、SolarEdge ロゴ、OPTIMIZED BY SOLAREEDGEは、SolarEdge Technologies, Inc.は商標または登録商標です。ここに記載されているその他全商標は、各所有者の商標です。日付：2023年5月24日、DS-000122-ROW 内容は予告なしに変更される場合があります。

市場データと産業予測に関する注意：このパンフレットによるプレゼンテーションは特定の第三者の情報源からの市場データと産業予測を含んでいます。この情報は産業調査および作成者の産業における専門知識に基づいていますが、そのような市場データの正確性や産業予測が当たるという保証はありません。独自にそのような市場データと産業予測の精度について確かめていませんが、当社は、市場データが信頼できて、産業予測が合理的であると信じています。

**CE RoHS**

**solar**edge